

組織目標評価報告書（平成24年度）

部局名: **大学院医歯薬学総合研究科(医学系)**
医療教育統合開発センター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標	
<p>学部、研究科、病院、医療教育統合開発センターが一丸となり、岡山大学医学系を中心としたシームレスでダイバーシティに配慮した医療人のキャリアパスを確立し、実施する。</p> <p>分子イメージングコースをふくめた大学院定員充足を目指す。</p> <p>医療教育統合開発センターの人員と内容をさらに充実させ、臨床系教育の有機的・機能的な展開を進めることでさらに機能の充実と有効利用の促進を図る。</p>	<p>自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成25年度大学院入学定員は充足した。(博士課程:定員128名のところ、131名、修士課程:定員20名のところ、20名の入学手続きが完了している。) 鹿田地区に点在するシミュレーションスキルラボを新設されたマスカットキューブスキルラボに集約し、医・歯・薬・保・病院合同での各種セミナーを計画し、実施した。そのすべてをここに記載することは困難であり、ホームページに詳細を掲載しているので参照されたい。 http://www.okayama-u.ac.jp/user/cdmhe/houkoku/houkoku.html H24年度に医療教育統合開発センター関係で実施したセミナー、ワークショップ、講習会は合計17件。そのほかにも学内外の教育集会等の支援を行っている。 新設された、MERC(医学教育リノベーションセンター)と協力し医学部の臨床実習前教育にも導入したシミュレーターを用いた実習を行い、医学科4年生のOSCE(客観的臨床技能評価試験)の成績は昨年度と比較して改善した。歯学部および薬学部でもそれぞれOSCEを実施し、医歯薬の臨床実習前教育を厳格に評価し、充実した臨床実習に貢献している。また医歯薬CBTのサイトマネジメントも開始している。 医学科では臨床実習終了後の技能評価目的にadvanced OSCEを実施し、教育効果の客観的評価法の確立に向けた取り組みを実施している。 医療教育統合開発センターの人員については、新設のMERCに准教授および地域医療人材育成講座の助教の採用を行っている。臨床系教育の有機的・機能的な展開を進め、その機能の充実を図る目的で、学内の教職員を対象としたFDとして、「海の日FD」を医学科教務委員会と共同で実施した(平成24年7月21日:岡山大学五十周年記念館)。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<ul style="list-style-type: none"> 新入大学院生数および分子イメージングコース学生評価。 医療教育統合開発センター人員の数と活動に係る数値(年間の開催・利用数など) 	
②研究領域	
②-1 目標	
<p>地域産学官共同研究拠点整備事業おかもやまメディカルイノベーションセンター(OMIC)の運営を円滑に行い、分子イメージング研究を推進する。</p> <p>研究者間情報交換の機会を積極的に設け、大型の科研費及び外部資金のさらなる獲得を推進する。</p> <p>他の医療系(歯学系・薬学系)との研究交流をさらに活発化させ、新たな研究シーズにつき検討しその臨床応用に向けた取り組みを具体的に開始する。</p>	<p>自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> OMICの運営に関しては、各種の追加に対応すべく施設の改修を行ったために使用実績を上げることが困難であった。しかし年度末には本格的な運用を開始できた。 研究者間情報交換については昨年度よりさらに活発に行った。秋に1泊2日で研究交流会(BS in 直島)を開催し、80名以上の医歯薬研究者・院生の発表者の参加をみた。さらに平成25年2月には高度先端研究者の講師による医学研究のトレンド2013を開催し、これも80名以上の研究者・院生・学部学生の参加があった。また、実際に新たな系を超えた共同研究が開始されている。(次年度以降は、共同研究者間の討議を中心としたコア・ミーティングを開催する予定である。) 分子イメージングに係る研究数はおおむね10件程度。 医歯薬学総合研究科の獲得した科学研究費については、平成24年度は件数は増加傾向にあり総額は若干の低下を認める(科学研究費全体の縮小の影響と考えている。) 検討した研究シーズは数件、うち1件は医師主導の臨床試験を申請中。
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<ul style="list-style-type: none"> 分子イメージングに係る研究数(研究科・保健学研究科・病院の合算)。 科研費及び外部資金獲得額(研究科)。 検討した研究シーズとその臨床応用に向けた取り組みの数。 	
③社会貢献(診療を含む)領域	
③-1 目標	
<p>岡山県地域医療再生計画を推進し、新設される地域医療人育成センターおかもやまと共同して、地域医療人育成事業を行うとともに、女性医師等の復職支援事業のさらなる充実を図る。</p> <p>学部、病院とも連携して、岡山市の進める医療連携をさらに充実させる。</p>	<p>自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 岡山県地域医療再生計画に基づき、地域医療を担う人材の育成に積極的に取り組んでいる。具体的には平成24年2月に発足した地域医療支援センターと協働し、地域枠学生の卒業キャリアパスの構築をすすめ、8月には地域枠学生と自治医科大学学生の合同セミナーin湯原の開催などの新たな取り組みを行った。学生教育に関しては、これまでの1、3年の地域医療体験実習(地域枠必修+一般枠選択)に加えて5年の離島実習を開始した。また、本年度より3-4年生の地域医療体験実習の必修化がスタートし、実習施設の大幅な増加、学生の実習のサポートなど大幅な改編に対応している。 女性医師等の復職支援事業は順調に成果を上げており、平成24年度の大学病院への新規復職者12名、地域医療機関への新規復職者は2名であり、平成20年度からのトータルは大学病院への復職75名、地域への復職13名である。地域医療人育成事業の企画件数:地域医療実践セミナー3回、復職のためのシミュレーショントレーニング:4回、女性医師対象勉強会:17回、キャリア支援フォーラム:1回、各種講演会(介護、次世代育成):7回。 岡山市との医療連携については、岡山大学と岡山市の地域医療体制である「岡山大学と岡山市との保健医療連携に関する協定」を基軸に、岡山大学と岡山市の連携大学院を平成26年を目処に開設する予定でその準備を進めてきた。連携講座では、総合診療・地域医療・プライマリーケアを担う市民病院の特性を活かした臨床データを解析し臨床研究を展開すること、さらに岡山市における臨床データベースを構築し分析することにより、岡山市における地域医療全体のレベルアップにも貢献することなど市民病院と岡山大学両者での臨床を実践により、総合医療教育をスムーズな形で実践するとともに、岡山から発信する臨床研究の向上、岡山発の新たな臨床エビデンスの提供できる体制を構築している。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<ul style="list-style-type: none"> 地域医療人育成事業による企画など実施件数。 復職医師数。 	
<p>・総合的にみて、医歯薬学総合研究科としての平成24年度当初に掲げた目標は達成できた。</p> <p>・改善すべき点としては、①分子イメージング研究の研究設備の利用率を上げること。②重点化研究費獲得に向けた、より具体的なアクションプランの作成と実行。③自治体(岡山県および岡山市)との連携人材育成事業の具体化と実施が挙げられる。</p>	